

泊発電所 緊急安全対策の実現性をより高めるための対応の概要

泊発電所 1, 2号機の安全性に関する総合評価（一次評価）については、平成24年9月3日に原子力安全・保安院より審査結果の取りまとめが公表されました。

審査結果の取りまとめにおいて、緊急安全対策の実現性をより高める観点から更なる対応が必要と判断された課題に対して、当社は以下のとおり対応しました。

(1) 浸水対策に係る課題に対する対応

- ・津波来襲前に門（かんぬき）の設置が必要であった扉（4箇所）については、平成24年9月末までに全て水密扉化し、門による閉止作業を不要としました。これにより、扉の水密性の確保がより確実になりました。



水密扉化前の例

水密扉化

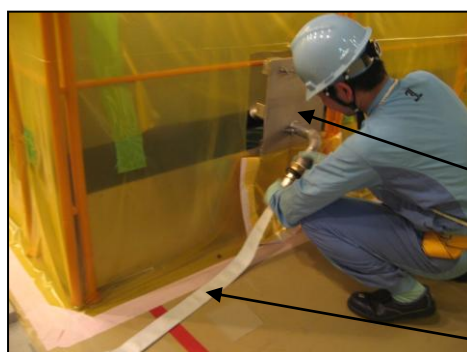


水密扉化後の例

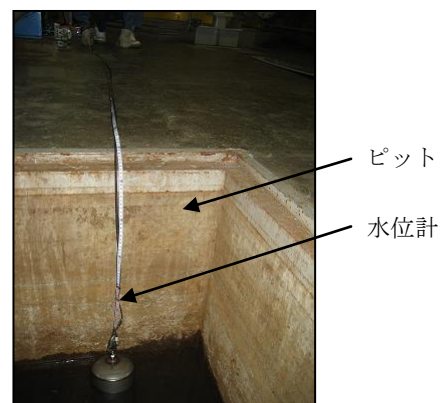
- ・また、上記の水密扉化により当該扉からの浸水量を低減しました。これにより、床ドレンからの排水を考慮しないより厳しい条件での評価においてもタービン動補助給水ポンプ等の対象設備が浸水しないことを確認しました。

(2) 訓練に係る課題に対する対応

- ・使用済燃料ピット（SFP）周辺に給水用ホースの固定と接続が可能な治具を新たに配備し、実作業を模擬した給水確保の訓練を行いました。また、非管理区域に設置されたピットを用いて、実作業を模擬した水位監視の訓練も行いました。これらの訓練については平成24年8月末までに実施済みです。



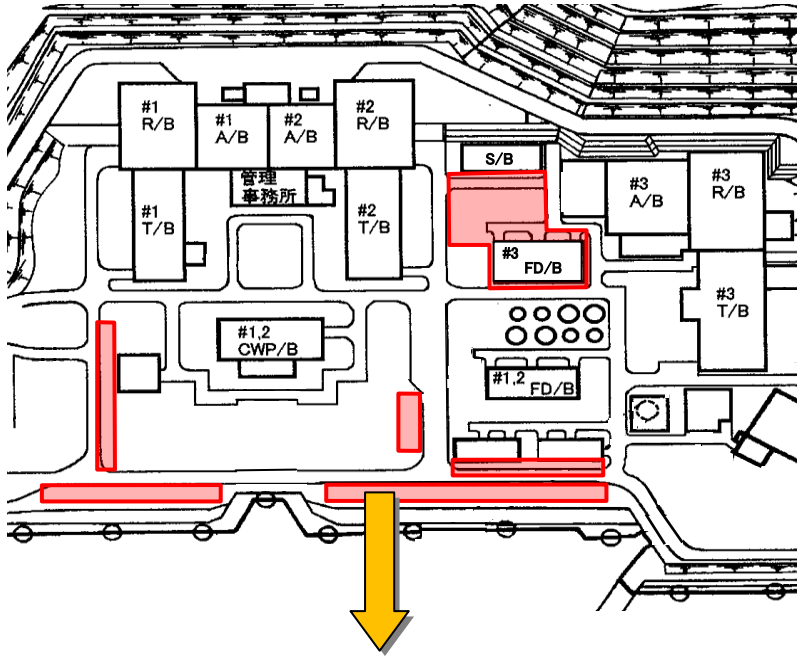
実作業を模擬したSFPへの給水訓練の様子



実作業を模擬したSFPの水位監視訓練の様子

(3) 漂流物に係る課題に対する対応

- ・平成24年9月末までに海拔10mの敷地高さにおける駐車車両の削減やコンテナ等の撤去・漂流防止措置を実施しました。



- <凡例>
- ・#：号機 (例：#1は泊1号機)
 - ・R/B：原子炉建屋
 - ・A/B：原子炉補助建屋
 - ・T/B：タービン建屋
 - ・S/B：総合管理事務所
 - ・CWP/B：循環水ポンプ建屋
 - ・FD/B：給排水処理建屋
- ：駐車車両を削減したエリア

駐車車両削減後の状況 (海側の駐車場の例)



コンテナ等の漂流防止対策の例



コンクリートブロックによる固定